

水稲新品種「ヨカミノリ」について

渡辺進二・小野敏忠・西山 壽・本村弘美・井邊時雄

志村英二・赤間芳洋・滝田 正

(九州農業試験場・¹元農業生物資源研究所・²元中国農業試験場・³元九州農業試験場・⁴熱帯農業研究センター)
(⁵農業研究センター・⁶愛知県農業総合試験場山間技術実験農場)Shinji WATANABE, Toshitada ONO, Hisashi NISHIYAMA, Hiromi MOTOMURA, Tokio INBE, Eiji SHIMURA,
Yoshihiro AKAMA and Tadashi TAKITA: A New Rice Cultivar "Yokaminori"

水稲新品種「ヨカミノリ」は、1988年度から福岡・佐賀両県において奨励品種に採用され普及に移された。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告し普及の参考に供する。本品種の育成に関し、種々ご高配をいただいた関係県農業試験研究機関各位に深く謝意を表する。

1. 来歴及び育成経過

本品種は、1977年九州農業試験場において早中生、強稈、良質、多収を目標として、早生で強稈、良質の「西海144号(ヤマチカラ)」を母、白葉枯病耐病、多収の「あそみのり」を父として交配を行い、1980年F₄で個体選抜を行い、以後系統育种法により選抜、固定を図った。1984年F₈から「西海172号」の系統名で関係県において地方適応性を検定したもので、1988年5月に「水稲農林292号・ヨカミノリ」と命名、登録された。

2. 特性の概要

1) 形態的特性 「あそみのり」に比べ稈長及び穂長はやや短く、穂数はやや多いやや短稈偏穂数型である。正葉は直立し草姿、熟色は良い。無芒で稃先色は黄白、脱粒性は難、粒着密度は中である。玄米の形状はやや長粒の「あそみのり」より短い中で、粒大は中である。色沢は中、光沢は大で腹白、心白は極く少なく、外観品質は「あそみのり」より良く「コガネマサリ」並みの上下である。搗精歩合は「あそみのり」並みの普通である。食味は「日本晴」「あそみのり」並みに良い。

2) 生態的特性 出穂期、成熟期は「あそみのり」よりやや遅く「コガネマサリ」並みで暖地では中生の中に属する稈種である。耐倒伏性は「あそみのり」より勝り強である。

いもち病抵抗性遺伝子型はPi-ta²とaをもつと推定され、葉いもち圃場抵抗性は「あそみのり」「コガネマサリ」より弱く、やや弱である。白葉枯病に対しては1群菌に抵抗性を示す黄玉群に属し、圃場抵抗性は「あそみのり」よりやや弱い「コガネマサリ」より強く、やや強である。縮葉枯病には罹病性であり、イネわい化病抵抗性はやや弱である。

収量性は「あそみのり」「碧風」と同程度で、肥沃地では「あそみのり」よりやや多収である。

3. 適地及び奨励品種採用理由

九州北部及び近畿地方以西の温暖地西部の平坦肥沃地に適する。福岡、佐賀両県における熟期別作付割合は早生種と中生の晩及び晩生種に偏っており中生種は少ない。筑後川をはさんだ筑紫平野では中生の晩及び晩生種の作付が多く、適期収穫、共同乾燥施設の有効利用等

があり、強稈で良質安定の中生種の導入が強く要望されていた。福岡県では玄米が長粒のため流通評価が低い「あそみのり」と、刈り遅れによる食味の低下が大きく流通上問題になっている「ニシホマレ」等を対照とし、佐賀県では玄米の胴割れなどで品質が不安定な「碧風」や流通評価が低い「ニシヒカリ」「ミナミニシキ」等を対照として奨励品種に採用した。

第1表 ヨカミノリの特性概要

品種名		ヨカミノリ	あそみのり	コガネマサリ
形質				
早 晩 生	草 型	中生の中 偏穂数型	中生の早 中間型	中生の中 穂重型
出穂期(月・日)		8.29	8.27	8.29
成熟期(月・日)		10.18	10.17	10.18
稈 長(cm)		77	80	89
穂 長(cm)		19.6	20.7	21.4
穂 数(本/m ²)		401	382	356
芒の多少・長 短		無	稀・短	やや少・やや短
稃 先 色		黄 白	黄 白	黄 白
脱 粒 性		難	難	難
耐 倒 伏 性		強	中	やや弱
耐 病 性	(Pi-ta ² a)	(Pi-ta ² a)	(Pi-a)	(+)
	葉いもち	やや弱	やや強	中
	白葉枯病	やや強	強	中
	縮葉枯病	罹病性	罹病性	罹病性
	イネわい化病	やや弱	やや強	中
玄米重(kg/a)		56.4	54.9	57.3
同上標準比率(%)		103	100	104
玄米千粒重(g)		22.3	23.6	21.6
玄米品質		上下	中中	上下
食 味		中上	中上	上下

注) 育成地における1982年～'87年の標準栽培

4. 栽培上の注意

山麓地や地力の低いところでは生育量が不足して能力を発揮できないので栽培は控える。いもち病に対しては真性抵抗性遺伝子型Pi-ta²をもつので、この遺伝子型を浸す菌系が発生しない段階では発病しないが、圃場抵抗性はやや弱いので侵害菌系の発生による発病には十分注意し適期防除に留意する。縮葉枯病には罹病性なので適期防除に留意する。

5. 命名の由来

北部九州平坦肥沃地に適する良質安定の良か(北部九州の方言・良い)品種であることに因む(良稈)。